

日本流通学会第 33 回全国大会統一論題

「AI 時代の流通イノベーション」趣意書

2019 年度プログラム委員会

日本流通学会第 33 回全国大会は、2019 年 10 月 18 日（金）～20（日）の 3 日間、
明治大学駿河台校舎リバティタワーで「AI 時代の流通イノベーション」を統一論題に掲げ
て開催される。

「AI 時代」とは、オンライン・オフラインからビッグデータが収集され、そのビッグデ
ータを高性能コンピュータが機械学習を通じて分析し、判断し、最適解と思われるものを
提示する時代である。AI については過去何度かブームがあったが、現在はハードウェアと
ソフトウェア双方の発達により「第四次産業革命」と呼ばれるような大変革をもたらしつ
つある。クラウドサービスも IoT もブロックチェーンも SNS も、AI を中心とした第四次
産業革命の申し子である。

これを受けて流通も大変革を遂げつつある。e コマースの発展やリアル店舗の変革、シ
ェアリングエコノミーの進展、ダイナミックプライシングの高度化、SCM やロジスティ
クスの改変、キャッシュレス、モバイル決済などは、いまや AI 抜きで語ることはできな

い。AI時代の流通イノベーションは、どのような分野で起こっているのか、どのような変革をもたらしているのか、それが誰に対してどのような影響をもたらしているのか、その影響に対して我々はどのような準備をしておかねばならないのか、今回、この問題を日本流通学会初の統一テーマとして掲げ、検討したい。

「AI時代」には理論的にも再検討が迫られている。これまでの流通理論の多くは主体が製造業であれ卸売業であれ、小売業であれロジスティクス業であれ、企業視点をベースに構築されてきた。流通システム論などのマクロ視点もあることはあるが、それらにおいて消費者あるいは生活者は「行為の客体」の地位しか与えられていなかった。それが現在は、消費者や生活者が「行為の主体」に躍り出ている。eコマースにおけるCtoCや製品開発におけるユーザーイノベーション、プロモーションにおける新しい形のWOMなど、理論的にも無視できない状況になっている。

第33回全国大会は、研究者・実務家の叡智を集めてこの新しい課題に挑戦したい。10月19日（土）の統一論題セッションでは、研究者3名と実務家2名にそれぞれの専門領域における知見を披瀝してもらう予定である。その後、パネルディスカッションを通してそれぞれの領域の深掘りを行うとともに、通底する共通課題への理解を深める。参加者も積極的な参画を通して、この試みに加わっていただきたい。10月20日（日）の自由論題報告は、統一論題に関連する報告も含め、今日的なさまざまな課題を会員と一緒に議論できれば幸いである。